

平安女学院高校の「リベラルアーツII（総合的な探求の時間）」の授業は毎年4月、「東日本大震災から学ぶ人権問題」というテーマで学習する。震災から10年、被災地の状況はどのように変化しているか捉え、生徒はそれぞれ意見を交わす。被災者の目線をとり、災害に備えるにはどうすればいいのか、生徒自身で調べたこと（※の箇所）や感想を一部紹介したい。

自然災害と人権問題の授業から（高校3年）

人は様々な人権を持っていて、私は持っていて当たり前、それが普通なんだと思っていたけど、自然災害の前では衣食住の問題だけでなく、プライバシーの権利を維持できない状態におちいっていたことが今回の授業でわかった。これからは自分の人権がいつ守れなくなるのかわからないから、覚悟というかその意識を心の中においておこうと思った。

※釜石の奇跡のことについて調べて、日頃の防災訓練の大切さに気付いた。想像しているよりもっと安全なところへ避難する。地震が起きた後には、建物の上からガレキや看板や物が落ちてくるから頭上には注意することを頭に入れておこう思った。

東日本大震災では津波の被害が大きく、津波のことばかり頭の中に入っていたけど、（災害関連死の要因として）「脱水症状」で亡くなる方もいたことを知って驚いた。地震・津波から助かったとしても安心してはいけないことを学んだ。

※東京マグニチュード8.0ではアニメで頭の中に入りきやすく、その中で主人公の弟が地震から助かっても、「脱水症状」らしき描写とともに亡くなってしまうシーンがあった。震災のことについて調べる機会が少ない人でも、沢山の知らないこと、大切なことを知れるなと思った。



「東京マグニチュード8.0」
2009年に放映されたアニメ
内容から防災や危機管理を
知ることができる。

「釜石の奇跡」　震災と津波の伝承によって岩手釜石市の小中学校の児童・生徒が無事避難できたこと。



授業で紹介された映像を見て、男の人が「他の人と比べて自分はそんなに人を亡くしていない」と語っていた。1人でも亡くしてしまえばとても悲しいのに、「自分はまだマシなほう」と思わせた震災が人に与えた影響の大きさをこの会話だけでも感じさせられた。被災地では盗難や事件が相次いでいたことも知って、人々が支えあっていた中でもそういうことがあり、知っておくべきことだと思った。

中学2年生 新聞発表より

避難勧告は「避難指示」に一本化 ~5月20日から新避難情報開始へ~

自治体の災害情報大幅変更「避難指示」=全員逃げる (京都新聞5月30日付)

の記事を読んで

「気候変動が世界の各地で発生しており、日本も梅雨の時季は、特に災害が起りやすいので、突發的な大雨の時でも、従来の『避難指示・避難勧告』だと何をすればいいのか分かりにくいところがありました。しかし今回のように『避難指示』が一本化することで、災害が起った時、身の安全のために、適切な行動ができるようになる人が増えると思います。

我が家の災害に対する対策を振り返ってみると、自宅の周辺に川がなかったり、地震も起りにくく地域であることから、災害時の避難場所、非常食の準備なども充分にできていないことに気が付きました。我が家に限らず、地域が安全であることから、防災意識に薄く、詰めの甘い部分のあるご家庭もあるのではないかと思います。災害がいつ起こっても、適確な行動ができるように備えておきたいです。」

(中学2年 小林 香凜さん)



避難情報の制度変更を盛り込んだ改正災害対策基本法が先月の20日に施行された。これに伴い、防災情報を5段階の危険度に分類する「大雨・洪水警戒レベル」が改定された。

これまで、危険度が2番目に高いレベル4で市町村が出す避難情報として、「避難勧告と避難指示」が両方記されていた。その違いが十分に浸透していなかったため、災害が差し迫った状況で発令される避難指示まで住民が待ち、逃げ遅れる事例が後を絶たなかったのだ。



5段階の警戒レベル

これまで		きょうから	
とるべき行動	避難情報	とるべき行動	避難情報
5 命を守る行動	災害発生	命の危険 直ちに安全確保!	緊急 安全確保
4 全員避難	避難指示(緊急) 避難勧告	全員避難	避難指示
3 高齢者など避難 他の住民は準備	避難準備 高齢者等避難開始	高齢者等避難	高齢者等避難
2 避難行動を確認	大雨・洪水警戒注意報 (気象庁)	避難行動を確認	大雨・洪水警戒注意報 (気象庁)
1 災害への心構えを	早期注意情報 (気象庁)	災害への心構えを	早期注意情報 (気象庁)

変更後はレベル4の避難情報を、「避難指示に一本化」する。避難指示の発令時は、土砂災害警戒情報などが出される状況にあるため、危険な場所にいる人全員が避難の対象となる。それより危険度が低いレベル3は「高齢者等避難」に簡略化した。国は住民に、レベル4までに避難を始める求めることを求める。

最も危険なレベル5は、災害が発生したか切迫している状況で、避難情報は「緊急安全確保」に変更した。この段階で避難していない住民が取るべき行動として、少しでも安全な部屋に移るなど、もしもの場合に備えて万全の策をとるよう示されている。